



順光寺だより

第10号

2025(令和7)年7月1日発行

2024年、順光寺の境内整備事業の一環として、中庭を整備しました。

住職挨拶

順光寺住職 籠 純吾

慈光照護のもと、皆さまにおかれましては、ますますご健勝のことと存じます。

おかげをもちまして、この「順光寺だより」は、第10号という節目を迎えることができました。これもひとえに、編集委員の皆さまをはじめ、日頃よりお寺を支えてくださっている皆さまのお力添えあってのことと、心より感謝申し上げます。

思い返せば、第1号の発行から今日まで、お寺の行事や境内の様子、仏教の教えなどを掲載し、順光寺を少しでも身近に感じていただきたいという願いのもと、回を重ねてまいりました。この10号という一区切りは、通過点でありながらも、私にとって大きな励みです。

これからも皆さまとのお縁を大切にし、お寺が心の拠りどころとして、より一層親しみのある場所となるよう努めてまいります。どうぞ引き続き、温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。



総代長挨拶

順光寺総代長 福井昭夫

寺報「順光寺だより」第10号をお届けいたします。編集委員の皆さま、ご執筆いただいた皆さまに厚く感謝申し上げます。

昨年度は、門信徒の皆さまのご支援とお力添えをいただき、境内の整備事業を進めることができました。長年の課題であった駐車場や参道の舗装をはじめ、中庭の改装、そして山門の修繕にも着手し、無事に工事を終えることができました。

これらの整備により、参拝や行事への参加が、より安全で快適なものとなれば幸いに存じます。皆さまにとって、順光寺がより身近な場となるよう、今後も努めてまいります。

これからも、順光寺が心の拠りどころとなるよう、皆さまとともに歩んでまいりたいと存じます。今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくようお願い申し上げます。



10号記念特集～順光寺思い出アルバム



仏間で懇親会 1986(昭和61)年



外で昼食会 1989(平成元年)



大正琴 1996(平成8)年



盆前清掃お勤め 1997(平成9)年



サマースクール 2011(平成23)年



副住職就任祝賀会 2015(平成27)年



盆前清掃の記念写真 2015(平成27)年



婦人会で忘年会で踊る「炭坑節」の練習 2015(平成27)年



改修前の本堂 2017(平成29)年



改修後の本堂 2019 (令和元)年



梵鐘

かつて順光寺にあった梵鐘(釣り鐘)。残念なことに、戦時中に供出を余儀なくされ、戦後も返還されることはありませんでした。(昭和17年8月撮影)

書籍紹介

松江藩松平家 藩主と家老

(玉木 勲 氏 編著・ハーベスト出版)

順光寺のこと、順光寺を再興した神谷家老のことなど、10ページにわたり詳しく掲載されています。 定価 3,850円 (税込)



2024 (令和6)年度 行事報告

婦人会お花見 〈4月10日〉

婦人会の皆さんと一緒に、堀川遊覧船に乗船。
この日が今期最後の「こたつ船」でした。



第1回 納涼会 〈7月20日〉

サルスベリの花が咲く頃に、本堂で親睦を深めました。
今後も継続して開催する予定です。



門信徒総会・ハーブ演奏会 〈6月16日〉

2023年度の事業報告・決算報告、2024年度の事業計画・予算などについて、ご意見をいただきました。昨年に引き続き、総会后、順光寺で開かれている「葵ハーブ教室」の皆さんによるハーブ演奏会。素敵な音色が本堂に響きました。



盆前清掃 〈8月3日〉

お盆前の一斉清掃。ご門徒の皆さまと一緒に本堂や境内のお掃除、仏具のお磨きを行いました。今年も、気持ちよくお盆をお迎えすることができました。ありがとうございました。



盆合同法要 〈8月15日〉

今年で3回目となる「盆合同法要」。8月15日の午後2時から、本堂で一緒にお盆のお勤めをさせていただきました。



報恩講 〈11月17日〉

浄土真宗の教えをお遺しくださった宗祖親鸞聖人のご遺徳を偲び、お聴聞をさせていただく法要。浄土真宗の寺院では、年間を通して最も大切とされる法要です。ご講師は、吉田 剛 師（松江市奥谷町・眞光寺）。ご門徒の皆さまと一緒に聴聞させていただきました。



元旦会 〈1月1日〉

年の初めに御尊前にお礼をし、心を新たにする法要です。お勤めの後、お参りの皆さんと一緒に抹茶をいただきました。



春彼岸・永代経法要 〈3月20日〉

亡き人をご縁とし、故人を偲びながら、ご自身が聞法のご縁をいただく法要。毎年、春のお彼岸の中日にお勤めしています。阿弥陀経をお勤めし、住職からお話をさせていただきました。婦人会のお三方による紙芝居も好評でした。



順光寺トピックス

2024年度、よりお参りしやすい環境を整えるため、境内整備工事を行いました。

参道整備

参道（正面の通路）を舗装しました。雨が降っても水が溜まりにくくなりました。



山門スロープ設置

一部老朽化していた山門（正面の門）を修繕。併せて、スロープを設置しました。車椅子をご利用される方をはじめ、お参りいただく皆さまにとって使いやすい参道になりました。



中庭改装

防草シートの上に砂利を敷き、苔を植えました。すっきりと見栄えの良い庭になりました（表紙写真参照）。



駐車場整備

本堂裏の駐車場を舗装しました。樹木を伐採し、以前より多くの台数を止められるようになりました。白線に沿ってお停めください。



菖蒲の植え替え

順光寺の名物である、本堂横の菖蒲の花。経年で弱ってきたこともあり、総代の皆さんと一緒に植え替え作業を行いました。



仏事Q&A

ご葬儀について

「生」に執らわれ、死の現実から目を逸らせがちな私たちに、(亡き人も含めて) 一つのけじめとして死を受けいれさせ、一步前に進む契機を与えるのが葬儀です。葬という字は、原野に屍を安置する形ですが、これは放置するのではなく、遺体の変わりゆくすがたを直視し、死を受け入れる行為を意味します。また、屍や死という字は、残骨を拝するかたちの象形文字です。すなわち、亡き人の死を受け入れ、今後は亡き人を敬うべき存在として崇めていくことを表すのが「葬」という言葉です。

したがって、葬儀とは、亡き人のいのちを死で終わらせることなく、普遍的な価値を持って関わり続ける存在と私たちが受け止めていく儀式と言えるでしょう。

(浄土真宗本願寺派公式サイトより)

— 今回は、ご葬儀について、よくいただくご質問を紹介します。

家族が亡くなったら、最初にすることは何でしょうか？

身近な方が亡くなられたら、まずはお寺にご連絡ください。臨終勤行(枕経)の日程を決めさせていただきます。併せて、葬儀会社にもご連絡ください。

葬儀の基本的な流れを教えてください。

- ①ご遺体をご自宅や会館に安置された後、**臨終勤行**(枕経)をつとめます。その時に、お通夜・ご葬儀などの日程を相談させていただきます。葬儀会社の方が同席されると、その後の流れがスムーズになります。
- ②お葬式の前日に、**お通夜**のお勤めを行います。
- ③**お葬式**をお勤めします。さまざまな理由から、同じ日に**初七日**のお勤めも行います。
- ④**出棺勤行**の後、齋場で**火屋勤行**をお勤めします。
※③と④の順番が逆になることもあります。
- ⑤後日、ご自宅のお仏壇で**初速夜**のお勤めを行います。亡くなられた日を1日目とし、6日目の夕方にお勤めします。この時に、四十九日の法要やご納骨の日程を決めさせていただきます。

戒名は付けるのですか？

浄土真宗では、「戒名」ではなく「法名」と言います。法名は、仏法に帰依した人の名前であり、「釋○○」と漢字3文字です。最初に「釋」の字を使うのは、お釈迦さまの弟子であるということです。

本来、法名は、京都・西本願寺で執り行われる「**帰敬式**」を受式し、ご門主からいただくものです。ただし、帰敬式を受けずに亡くなられた場合は、所属寺院の住職が授与します。

葬儀をお寺の本堂で執り行うことはできますか？

お寺の本堂でもご葬儀をお勤めできますので、ご相談ください。

葬儀のことで、事前にお寺に相談しても良いですか？

わからないことやお悩みごとがあれば、何なりとお寺にご相談ください。できる限りのお力添えをさせていただきます。

順光寺SNSのご案内

順光寺の公式LINE・SNSで、ご門徒の皆さまに順光寺の情報を発信します。ご利用の方はぜひフォローをお願いします。



浄土真宗本願寺派順光寺寺報
順光寺だより 第10号

2025 (令和7) 年7月1日発行

編集 順光寺寺報編集委員会

発行 浄土真宗本願寺派
豊饒山 順光寺

印刷 株式会社谷口印刷



浄土真宗
本願寺派

順光寺

揮毫：細田青秀氏 (順光寺ご門徒)

〒690-0881 松江市石橋町44

TEL 0852-23-3718 FAX 0852-67-3276

E-mail info@jinkouji.or.jp

公式サイト https://jinkouji.or.jp

順光寺

検索

f jinkouji.matsue

X @Junkouji

Instagram jinkouji_matsue



フォト法話

Photo by Nagatani Jungo

私のものの見方

法話・写真 瀧 純吾（住職）

**南無阿弥陀仏をとなふれば
この世の利益きはもなし
流転輪廻のつみきえて
定業中天のぞこりぬ**

（浄土和讃）

総代の皆さまをはじめ、門信徒の皆さまのご協力により、順光寺の中庭を整備しました。草が生えないように、シートを敷き、その上に砂利を敷き詰めました。庭の木も整理し、ところどころに苔を植え、見違えるような庭になりました。

整備する前は、草が生えるたびに草取りが必要でしたが、シートを敷いたことで、その作業が必要なくなりました。大変ありがたいことです。

話は変わりますが、私は、随分前から、部屋で観葉植物を育てています。ポトスやパキラなど、部屋に緑があると、心が落ち着きます。定期的に水をやったり、葉っぱに霧吹きをかけたり、大切に育てています。

さて、私が普段いる部屋は、庭に面したところにあります。

まだ庭が整備される前のことです。観葉植物に水をやっている、庭の草が目に入ります。それを見て、「また草を刈らないといけないのか…」と気分が落ち込みます。

ここで、草の立場になってみましょう。草は植物です。種をまき、芽を生やし、太陽の光を浴びて、精一杯生きようとしています。

それなのに、私は、庭の土に生えている草を「雑草」と捉えて邪魔者と思い、部屋の鉢に植えてある草を「観葉植物」として大事に育てています。自分を中心としたものの見方をしているんですね。

私のものの見方は「良い」と「悪い」とに終始しています。今日はいい日だった・悪い日だったと言い、あの人はいい人・あの人は悪い人など、全てと言っていいほど「良い」「悪い」の判断です。しかし、「良い」「悪い」は自分の都合に合わせた私たちの判断です。

自己中心的なものの見方のなかで、自ら苦しみ悩んでいるのが、この私の姿です。それを見た阿弥陀さまは、すっとお立ちになって、この私をそのまま救うと、「南無阿弥陀仏」とお念仏となって、おはたらきくださっているのです。